

- (1) 語頭の母音単独音節に喉頭破裂を伴うものと伴わないものの識別標識として、『全集』では、語頭母音の前に〔ʔ〕の記号を用いることによって前者を、〔'〕の記号を用いることによって後者を表示している。しかし、本土語においては、語頭母音に喉頭破裂を伴うことが多く、殊に一語ずつ区切って強く発音すれば、そうなるのが通例であると認められるので、本書では、喉頭破裂を伴う語頭母音は通常の母音文字〔a〕〔i〕等を用いた。すなわち、ヘボン式の通りである。喉頭破裂を伴わないとされる語頭母音の場合、実際はその前に軽い半母音の存在が認められるので、『全集』の〔'i〕,〔'u〕等は〔yi〕,〔wu〕等の表記を用いた。
- (2) 半母音で始まる語頭の音節においても、喉頭破裂を伴う場合とそうでない場合とがあり、『全集』では前項と同様に〔ʔj〕,〔ʔw〕と〔'j〕,〔'w〕によってその識別をしているが、〔'i〕,〔'w〕はそれぞれ本土語のヤ行・ワ行の子音に相当すると考えられるので、本書では〔ya〕,〔wa〕等と表記することとした。〔ʔj〕,〔ʔw〕の子音は、日本本土語にも英語にもそういう音韻がなく、したがってヘボン式綴字法では表記法がない。そこで、これらの音を含む音節は私に〔(i)ya〕,〔(u)wa〕等と表記することとした。本土語の「ヤ」「ワ」等の発音口形で、その前に短かく「イ」「ウ」を挿入することによって、ほぼ、沖縄語のそれらの音に近い音を得られると考えたからである。
- (3) 沖縄語では、語頭に撥音音節の現われることがしばしばある。これらも、日本本土語にも英語にも見えない音韻現象であるが、沖縄語には、この語頭撥音音節にも喉頭破裂を伴うものと伴わないものがある。『全集』では、これらも前項などと同様に、〔ʔN〕と〔'N〕とで識別している。本書では、前者を〔(u)m〕または〔(u)n〕で、後者は〔m〕または〔n〕で表記した。mとnとの使いわけは、直接後続する音の違いによる(次項参照)。
- (4) 撥音の表記はヘボン式綴字法に従い、後続する音節の頭音が〔p〕,〔b〕,〔m〕である場合には〔m〕を用い、それ以外の場合は〔n〕を用いた。語頭撥音の場合(前項)も、喉頭破裂の有無にかかわらずこれに準ずる。なお、後続音節の頭音が母音であったり半音であったりする場合、nの後に〔-〕を挿入して、後続音とは別音節であることを明らかにした。
- (5) 『全集』で〔ʂi〕〔ʑi〕と表記される音も、本土共通語にはない音である。これらの音の表記には、ヘボン式が英語式綴字法を規準とするのを準用して、〔si〕,〔tsi〕の綴字を用いた。
- その他、『全集』の標音表記法を本書において改めたものを、まとめて一覧表にすれば次の如くである。

全集	本 書	全集	本 書	全集	本 書	全集	本 書
ʔa	a	'N	m,n	hw	f	ʔu	u
c	ch	N	m,n	ʔi	i	'u	wu
ç	ts	ʔo	o	'i	yi	ʔw	(u)w
ʔe	e	'o	wo	ʔj	(i)y	'w	w
'e	ye	Q	k,p,t	'j	y	z	j
hu	fu	si	shi	j	y	z	z
ʔN	(u)m,(u)n	s	s	sj	sh		

## 目 次

はじめに	1
凡 例	5
本 文 篇	9
凡例にかえて	11
節組の部	13
吟詠の部	165
索 引 篇	303
語 索 引(和字の部)	305
凡 例	306
語 索 引(ローマ字の部)	371
凡 例	372
句 索 引	531
凡 例	532
節名索引	643
凡 例	644
作者索引(和字の部)	649
凡 例	650
作者索引(ローマ字の部)	665
地名索引	675
凡 例	676

〔校異〕 (1)覧一未 (2)覧一荅で (3)覧一居 (4)覧一と (5)覧一待ら

Niwa(u)mminu hananu mada tsibudi wúsiya míyama uguisinu kuwiga machura.

## 浜千鳥節 (Hamachiduribushi)

885 旅や浜宿り草の葉ど枕寝ても忘ららぬ我親のおそば (古 1418)

〔校異〕 (1)古一の

Tabiya hamayadui kusanu fádú makura nítin wásiraranu wa yanu usuba.

886 渡海やへちめても照る月や一つあれも眺めゆら今宵の空や (古 1241)

〔校異〕 (1)古一へざめ (2)古一けふ ※古一節名「稲まつん節」

Tukeya fijamitin tiru tsichiya fitútsi árin nagamiyura kiyunu súraya.

887 旅宿の寝ざめ枕そばだてて覚出しゆさ昔夜半のつらさ

Tábiyadunu nizami makura súbadatiti ubijashusa mukashi yuwanu tsirasa.

888 しば木植ゑておかばしばしばといまうれ真竹植ゑておかばまたもいまうれ

Shibaki (u)wíti úkaba shibashibatu imori mátaki (u)wíti úkaba mátan imori.

## あさだうや節 (Asadoyabushi)

889 遊び庭の草葉誰がさねこなちやがわすた女童のさねこなちやさ (古 1213)

〔校異〕 (1)古一にや (2)古一さね粉 (3)古一宮 ※古一節名「伊集早作田節」

Asibinanu kusaba tága saniku nachaga wasita miyarabinu saniku nachasa.

## 大浦越路節 (Ufurakushijibushi)

890 みどりさしそへて春風になびく庭の青柳の色のきよらさ (古 22) 小祿按司朝恒

〔校異〕 ※古一節名註記ナシ

Miduri sashisuiti harukajini nabiku níwanu auyajinu irunu churasa. Uruku aji chookoo

## 満恋節 (Mankuibushi)

891 親持たす夫や磯端のむぎやなわが持ちゆる夫やむみやらもちまえ (古 1448)

〔校異〕 (1)古一ん (2)古一ゑ ※古一まんくい節

Uya mutasu wútuya isubatanu njana waga muchuru wútuya mummyara múchime.

892 かなし思里と満恋しゆる夜や冬の夜のたなげあらちたばうれ (乾 129)

〔校異〕 (1)乾一恋し (2)乾一二長 (3)乾一給れ

Kánashi umisatutu mankui shúru yuruya fúyunu yunu tanagi árachi tabori.

893 袖からが入ゆらすそからが入ゆらよはら押す風や定めぐれしや (覽 585)

〔校異〕 (1)覧一入ら (2)覧一裔 (3)覧一入ら (4)覧一わ (5)覧一押風 (6)覧一苦舎

Sudikaraga íyura súskaraga íyura yuwara úsu kajiya sadami gurisha.

894 袖やきぬぎぬの恋し色染めれ裾に貫きとめれしほらし匂 (覽 584)

〔校異〕 (1)覧一きの〜 (2)覧一染れ (3)覧一裔 (4)覧一貫留れ (5)覧一塩良し (6)覧一匂ひ

Súdiya chinujinunu kuishi iru súmiri súsunu núchitumiri shurashi niui.

895 旅や浜宿り草枕どころ寝ても忘ららぬ秘蔵がおそば (乾 130)

〔校異〕 (1)乾一枕ら (2)乾一寝も (3)乾一忘れぬ

Tabiya hamayadui kusamakura gukuru nítin wásiraranu fizoga usuba.

## 川平節 (Kabirabushi)

896 世間沙汰される大名屋のかんついつの夜の露に咲かち添ゆが (古 1420)

〔校異〕 (1)古一す

Shikin sata sariru deemyooyanu kantsi ítsinu yunu tsiyuni sákachi súyuga.

## さつく節

897 あだね垣だいなす御衣かけて引きゆりだいなすもとべらひや手取て引きゆさ (乾 79・古 900) 久米具志川王子朝盈

〔校異〕 (1)古一に (2)乾一てやんす (3)乾一懸て (4)乾一挽ひ 古一引い (5)乾一へ (6)乾一本 (7)古一び (8)乾一へ (9)乾一古一引さ \*乾一蒺藜垣節 古一節名註記ナシ

Adanigachi densi ínsu kakiti fíchui densi mutubireya ti tuti fíchusa.

Kumi Gushichaa wóoji chooei

898 お行逢拜むことやほこらしやどあすが別れゆることよかねて思めば

(u)Wiche wugamu kutuya fúkurashadu ásiga wakariyuru kutuyu kániti umiba.

## 八月節 (Hachigwatsibushi)

899 八月がなれば遊び月だいものあむしやれも遊べわぬも遊ば (乾 139・古 1449)

〔校異〕 (1)乾一の月や (2)古一でもの (3)乾一も 古一ん (4)古一り (5)乾一ん (6)乾一ひ (7)乾一予 古一我身

Hachigwatsiga nariba asibizichi demunu ansharin ásibi wanun ásiba.

900 秋来れば木草黄葉になてをすが蘭と菊の花匂まさて (覽 418)

〔校異〕 (1)覧一來は (2)覧一成て (3)覧一匂ひ (4)覧一増て

Achi kuriba kikusa chibani nati wúsiga rantu chikunu hana niui másati.

901 秋の夜どやすが鶯のほける春の面影の残てをたら (覽 419)

Achinu yudu yásiga uguisinu fukiru harunu umukajinu nukuti wútura.

902 八月の十五夜そなれやり見れば天久白浜の月のきよらさ (乾 140)

〔校異〕 (1)乾一い (2)乾一清さ

Hachigwatsinu juguya sunariyai miriba amiku shirahamanu tsichinu churasa.